

第 58 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和 7 年 6 月 14 日(土)13:00～16:00

場所：佐土原総合支所 2 階研修室

参加者：

□市民：19 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授（九州工業大学）

高田准教授(兵庫県立大学)

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、港湾課、中部港湾事務所、宮崎土木事務所

(市)佐土原総合支所農林建設課

実施内容：

宮崎河川国道事務所田脇副所長より開会の挨拶、国、県、他行政機関とコンサルタントの出席者の紹介を行い、その後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により談義が進められた。

コーディネータより今日の流れを説明し、「宮崎海岸の検討体制の確認」として、トライアングル、ステップアップサイクルによって事業が進められていく仕組み、談義所のルールについて説明した。

その後、事務局より、これまでの経緯、本日の位置づけ、今後の見通しを説明した。引き続いて「第 57 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「第 25 回委員会の報告」、「侵食対策や今後の進め方などについて」、「スケジュール」、「その他(実施済みの工事と今後予定している工事について)」を説明し、コーディネータより委員会に伝えた談義所意見について説明した。その後「侵食対策や今後の進め方などについて」について談義を行った。

※会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

1. 宮崎海岸の検討体制の確認

2. 第 57 回宮崎海岸市民談義所の振り返り

(意見・質問等なし)

3. 第 25 回委員会の報告

[参加者]

- ・小突堤の長さを 50m とする制約条件の根拠を説明してほしい。法律や条例で決まっているものなのか。漁業操業への影響であればそれについてデータで検証等をしているのか。

[事務局]

- ・漁業操業への影響については、漁協への聞き取り・話し合いにより、現時点では 50m で合意している。

[参加者]

- ・税金を投入しているので効果がある施設を設置すべきと思う。漁業操業が伸ばせないハードルとなっているのであれば、そのハードルを取り除く検討を進めることも必要と思う。

[参加者]

- ・小突堤の陸側基部を空けるのはなぜか。既設突堤は背後護岸との間に隙間はない。突堤と護岸の間に隙間があると土砂を止められないのではないか。

[事務局]

- ・事務局としても突堤と護岸の間は埋める必要があると考えており、今後、具体的な検討を進める予定である。

[参加者]

- ・養浜が実施されて斜面も形成されていたが、波に砂がさらわれて急勾配になりアカウミガメが上陸できない。上陸できた個体もあったが砂が固くて産卵できない。このため、どこにも産卵できない状態である。盛土の天端面の、工事用道路として固めている範囲が広すぎると思う。礫も多い。また、養浜の斜面には水が通ってできた崖(事務局注：ガリー侵食)もあり利用上も大変危険である。

4. 侵食対策や今後の進め方などについて

5. スケジュール

6. その他(実施済みの工事と今後予定している工事について)」

[参加者]

- ・小突堤と埋設護岸の工事はいつから、どこで実施する予定か。

[事務局]

- ・大炊田の埋設護岸の工事は11月頃から行う予定である。先行着手の小突堤は、工事発注は11月頃を予定しているが、現地での施工は環境等の調査が終了した後を予定している。

～ 休憩 ～

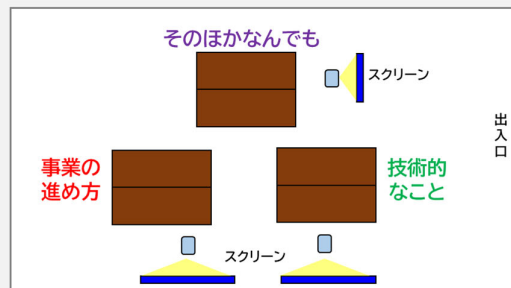
侵食対策や今後の進め方などについて【談義】

※付箋紙を用いたワークショップ形式で談義を行った。談義の項目は「侵食対策や今後の進め方などについて」であるが、それを念頭に3つのテーマ(事業の進め方、技術的なこと、そのほかなんでも)ごとに机を設置した。事前に付箋紙を参加者に配布して質問・意見・提案・想いなど記入してもらい、各テーマの机に設置した用紙に付箋紙を貼り付け、その付箋紙を見ながら談義を行った。各テーマの談義後に、それぞれの談義した結果をみなで共有した。

■談義の項目：侵食対策や今後の進め方などについて

■談義の進め方

- テーマごとに3つの机を用意します
- 各機のテーマは、「事業の進め方」、「技術的なこと」、「そのほかなんでも」です
- 各機で質問・意見等をお話してください
事務局、コーディネータ、コンサルと一緒に考えます
- 最後に、各機での質問・意見をみんなで確認します



テーマ：「事業の進め方」での談義

[参加者]

- ・小突堤について、構造についての議論の途中なのに先々の予定までが決まっているような説明に感じた。

[参加者]

- ・海岸に観光客を誘致できるように宮崎市の観光課などと一緒に進めていくことはできないのか。

[参加者]

- ・海岸事業の予算はどのくらいなのか。

[参加者]

- ・現地ではダンプトラックで養浜されているが、パイプラインを用いたサンドバイパスシステムは考えられないのか。また、その場合の費用はどの程度かを教えてほしい。

[参加者]

- ・宮崎海岸保全の基本方針では「コンクリート構造物をできるだけ減らす」とされているが、見直し計画でもこの考え方が担保できるのか。

[参加者]

- ・漁業者との調整について、これまでにどのような協議をしてきたのか、当初計画立案時から突堤を伸ばせなくなることはわかっていたのではないかと、当初計画立案時と現在でどのように状況が変わったのか。

[参加者]

- ・堤長 50m よりも延伸すると漁業操業の支障になるということだが、その意図・意味についてもう少し仔細に把握する必要があるのではないかと。

[事務局]

- ・漁業者との調整は 3 か月に 1 回程度は継続的に実施しており、これからも調整・協議を実施していく。

[参加者]

- ・漁業者が懸念を示している事項について、当事者同士の調整ではなく、漁業の専門家や水産庁職員など第三者的な立場の人にも意見をきいて判断するのが良いのでは。

[参加者]

- ・茨城県鹿島灘など沖合に施設を展開している他海岸に対し、どのようなことを漁業者が懸念しているかなどを確認して参考にすることも考えられる。

[参加者]

- ・漁業者に対して市民の立場からアンケートをしたり、話し合いをしてみてもよい。

[事務局]

- ・突堤の延伸の可能性についても引き続き考えていきたい。

テーマ：「技術的なこと」での談義

[参加者]

- ・突堤の成功事例を教えてほしい。

[事務局]

- ・突堤などの施設だけでは砂浜は回復しない。施設と養浜をセットにすることで砂浜を回復する効果がでてくる。宮崎海岸は他事業での土砂を活用して多量の養浜が実施できている。このような連携が十分に機能して養浜ができていることは全国的にみても誇れると思う。

[参加者]

- ・礫養浜はアカウミガメの産卵には適さないのではないか。また、利用面でも良くないのではないか。

[参加者]

- ・今年のアカウミガメの産卵調査で、カメがどのくらいの粒径まで産めるか調査していく予定である。

[参加者]

- ・高鍋の蚊口浜では、石の上に砂が堆積している。昔は海底に足をつくると足が切るような状況だったが、いまは歩くことができるくらい海底は砂になっている。なぜだろう。

[参加者]

- ・突堤を工夫してフォトジェニックなどの観光資源にできないか。また、月の道などを意識した夜の景観スポットとしての活用などは考えられないか。

[事務局]

- ・景観や観光利用については委員会でも意見が出されており、今後の検討課題と認識している。

[参加者]

- ・海中養浜はもうしないのか。海中養浜をしていた時は、遠浅になり良い波がたつなど、浅いところの地形に効果があったと感じている。

[事務局]

- ・海中養浜はごみが混入しているとの指摘が漁業者よりあり、現在ストップしているところ。今後も養浜のやり方を調整していく。

[参加者]

- ・設置済みの突堤のブロックがずれているようだが補修しないのか。維持管理について、今後 50 年後などを見据えたときに補修等はどのように考えているのか。

[参加者]

- ・既設突堤は根元の被覆ブロックが崩れたり、巨石が置いてあったりして景観上よくないのではないか。

[事務局]

- ・ブロックのずれ等が生じていることは認識しているが、突堤の高さは確保できている。高さが確保できていれば突堤としての機能を発揮できる。
- ・既設の本突堤、補助突堤①は当初計画ではそれぞれ延伸する計画であったため、現在の先端部の構造は仮設になっていることを共有しておきたい。

[参加者]

- ・構造物は入れてほしくないという考えが基本にある。そのため、小突堤の追加について、複数基追加していくという説明もあったが、できるだけ少なくしてほしい。また、設置して効果がなければ撤去するという選択肢もあると思う。

[事務局]

- ・何をもって効果とするか。宮崎海岸のように土砂が減っている状況で突堤を設置しても、それだけでは砂浜は回復しない。砂浜を回復するためには、土砂が必要であり、そのために養浜とのセットで取り組んでいるところである。
- ・動物園東エリアについては、先行着手の小突堤と次期着手の小突堤で挟み込んで、養浜を実施することで砂浜を回復させることを考えている。

テーマ：「そのほかなんでも」での談義

[参加者]

- ・ウミガメはどのような砂浜で卵を産むのか。

[参加者]

- ・アカウミガメは満潮線から 10m 程度陸側まで上陸し、さらに「カド」と呼ぶ浜堤の基部で産卵しやすい。宮崎は黒潮との位置関係で上陸・産卵に適した位置にある。北半球でアカウミガメが上陸・産卵するのは日本だけであり、そのなかでも宮崎県は日本の本土では上陸・産卵数が多い場所（日本全体では屋久島に次ぐ 2 番目）であり、アカウミガメは宮崎海岸の重要な象徴と言える。なお、現在県内で最も産卵が多い箇所は新富であるが、かつては一ツ葉～大炊田も多かった。

[参加者]

- ・宮崎の海岸はアカウミガメも含めて貴重な場所であることを広報・宣伝していくことが必要と感じた。

[参加者]

- ・浜幅の基準線について、護岸法肩や浜崖頂部を基準にしているが、その陸側にある保安林の範囲を砂浜にするという考え方もあるのではないかな。

[参加者]

- ・当初計画策定時にも同様な考え方(防護ラインを陸側して保全するセットバックという考え方)が議論された。当初計画策定時にはセットバックという考え方は採用しなかった。

[コーディネータ]

- ・当初計画から時間も経過し、気候変動の問題など取り巻く状況も変化しているため、改めてセットバックについて議論するという考えられると思う。

[参加者]

- ・セットバックした箇所を“ウミガメの里”などとネーミングしてアピールすると、砂浜の価値が伝わるのではないかな。

[参加者]

- ・この会議に緊張して参加したが、話し合いの時にいろいろな方々が何でも話していい雰囲気を作ってくれたためアカウミガメのことについて多くの質問ができて、いろいろな情報を得ることができた。その中で一番印象に残ったことは、日本の中でも宮崎が一番良い産卵場所ということがとても驚いた。今日教えてもらったことを学校の人にも話して共有してあげようかなと思う。

[参加者]

- ・アカウミガメの産卵は感動するのでみなさん、ぜひ見てほしい。

その他の意見など

[参加者]

- ・市民談義所の資料は量が多いため、会議時に渡されてもすべてを理解して質問などすることが難しい。事前に資料をメールなどで送付してもらえないかな。

[参加者]

- ・養浜にも限りがあるので、やはり一ツ瀬川などから土砂が自然に流れてくるように検討してほしい。

～コーディネータのまとめ～

[コーディネータ]

・本日は密に議論しようということでこう机を分けて、各机を移動できる形式で深く・多く談義をした。付箋紙に書かれた意見、発言した意見は、各机でメモして記録に残している。その一つ一つのすべての意見がこれからの宮崎海岸の侵食対策に生かされていくように、事務局で整理し、これからの対策を考えていくとき基礎になる。これだけたくさんの意見が出たというのは、すごく大きな今日の談義所の収穫と感じている。

技術的なことについては、他の海岸の事例など一緒に見ながら勉強するような場も必要と感じた。例えば突堤を作ったほかの地域では漁協とどのような話し合いを行ったのか、技術的な課題をどのように共有し、コミュニケーションしていったのか、どのようなことができて、できなかったことはなにかなどの情報が収集できれば宮崎海岸の侵食対策を考えるヒントが得られるのではと感じた。

この侵食対策事業の見直しは、次善の策として、小突堤から検討を始めるとして進めてきている。一方、市民談義所の皆さんの意見は、突堤を伸ばすことをあきらめない、市民も一緒に考えるし、必要であれば自分たちも助力する、という意見もあった。長い突堤を作るということについても、それをどう実現していくのか、みんなで知恵を出し合う機会が必要になると思う。

「技術的なこと」、「事業の進め方」両方の机で観光に関する意見が上がっていた。これは宮崎海岸をどう作っていくかということと、どう使っていくかっていうところで、使っていくことに関する議論も出てきたのは、本日の大きな収穫と感じた。“アカウミガメの浜”とかエリアに名前をつけ、若い人なども集まるような宮崎海岸の魅力を地元の人に周知されるような仕掛けについても提案があった。宮崎海岸のことを勉強してアカウミガメのことを知り、それを発信して得られたリアクションをこの宮崎海岸の侵食対策事業に生かしていくといったプロセスも実現する必要があると感じた。

今日は本当にたくさんの意見が出たので、市民連携コーディネータとして侵食対策事業に反映できるように尽力したいと考えている。

以 上